



東三河は四季の魅力がいっぱい!

とよはし ほの国 春 2022

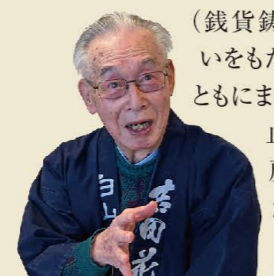
- 特集1—もっと知ってほしい東三河の祭り
- 特集2—とよはしまちあるき 吉田城春まつり



まちへの想いと強い絆で
“令和の吉田四大祭り”を目指す!

吉田 花祭り 豊橋市

鮮やかなピンクの花飾「勝花(かちばな)」を背負った人々が豊橋市の中心街、広小路通りを練り歩く「吉田花祭り」。毎年5月4日・5日に白山比咩神社(しらやまひめじんじゃ)の例大祭として行われているものです。一般的な祭が神仏への祈願や感謝、慰霊などの意味を持つのにに対して、吉田花祭りが目的としているのは「まちおこし」で、これは全国的にも珍しい。その起源は1665年。徳川家光の時代、この地に設けられた新銭座(銭貨鑄造所)が地域に賑わいをもたらしたものの、閉鎖とともにまちは衰退。これを食い止め、再び活気を取り戻したのが「花祭り」だったのです。



白山比咩神社運営委員長 高津政義さん



近年、少子化や高齢化が進みまちなかが元気をなくしていく中で、この精神に目をつけたのが運営委員長の高津政義さん。氏子六ヶ町の商店街やこの地域の活性化のためにはこの祭を復活させるべきと、2015年に花祭り実行委員会が発足。初代実行委員長の小林琢磨さんは「空費で資料も全て焼失しており何もわからないところからのスタートでした」と当時の苦勞を振り返ります。「なぜ花祭が必要なのか」という意義説明から「どんな行列の姿にするか」「勝花・花竿はどう作るのか」などこしらえ準備に至るまで、全てが手探り。それでも竹竿346本につける勝花約17,900個を町の人たちが協力し合って作り上げ、見事2016年に第一回の吉田花祭りを成功させます。三代目実行委員長の河合保幸さんは「今後は名実ともに吉田三大祭り」と肩を並べ「令和の吉田四大祭り」と言われるような祭りを目指していきます」と意気込みを語った。



初代吉田花祭り実行委員長 小林琢磨さん



吉田花祭り
 ■開催日—毎年5月4日・5日
 ■場所—白山比咩神社 豊橋市広小路三丁目82番地
 ■問合せ—吉田花祭り実行委員会 090-3480-0423(河合)
 ※2022年第7回(旧)の吉田花祭りは感染症拡大防止のため中止が決定しています



吉田花祭り実行委員長 河合保幸さん

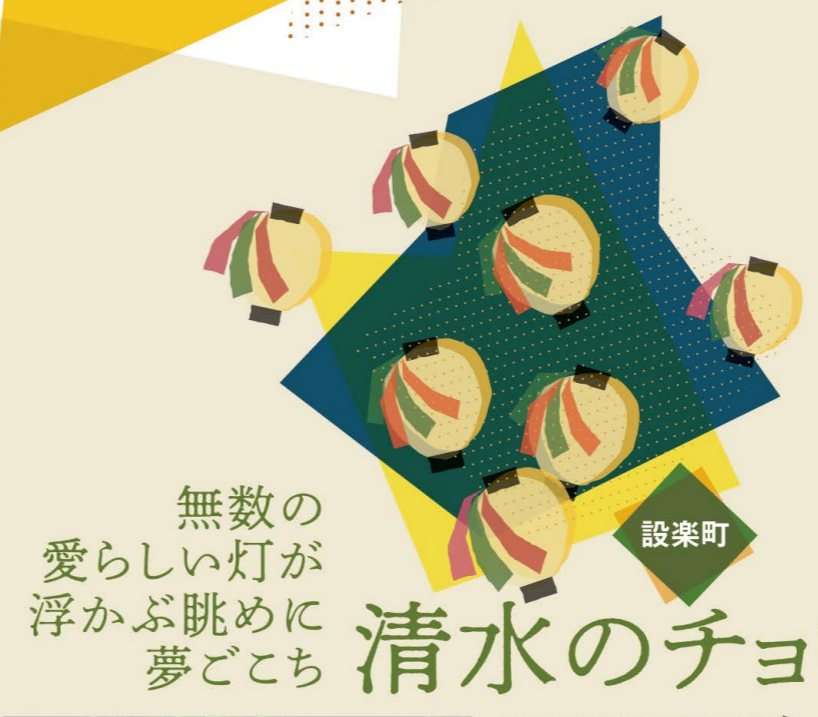


東三河の祭り

地域に根づいた 人々の想い

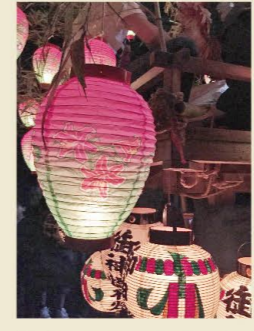
秘蔵版

古い歴史を持つ祭りが数多くある東三河。地域に根づいた風習として、大切に受け継がれてきた祭りには、全国的な知名度を持つ大きな祭りとは異なる格別の風情があります。「それほど時代が変わっても守り続けたいものがある」そんな思いが、ひとときの魅力となっている地域の祭り。今回は、そんなまだまだ知られていない東三河の祭りをご紹介します。



無数の
愛らしい灯が
浮かぶ眺めに
夢ごち

清水のチョウチン祭り



ぼうつ、ぼうつと宵闇に浮かぶ灯が幻想的な雰囲気をつくり出す「清水のチョウチン祭り」。このお祭りは毎年6月30日、設楽町の清水地区で行われるもので、愛知県津島市の津島神社のお祭りを模倣しており、疫病退散が目的です。同様の祭りは奥三河の各地で一般的に行われていましたが、清水津島神社のように盛大に、そして、伝統そのままに継承されているのは珍しいとか。祭り当日は、チョウチンの紐付けや、幣束、ヤナギと呼ぶ縁起物などを作る「屋台組」と、神社の掃掃や境内の草取り、注連縄の取り替えを済ませる「神社組」に分かれて準備。辺りが暗くなってくる頃、屋台組は神社でもらった神火を火種に、200張にも及ぶホウズキチョウチンのロウソクに火を灯します。やがて屋台は、笛太鼓の打ち囃しとともに子供らに曳かれて神社へ。ハイライトは神社での打ち囃し奉納後に行われるチョウチン取りで、見物人が我先にとチョウチンや飾り物を奪い合って大いに盛り上がります。それらは「夏病みしない」縁起物として、戸口に飾られます。



**清水の
チョウチン祭り**
 ■開催日—6月30日
 ■時間—18:00~21:00
 ■場所—清水・津島神社 設楽町西納庫字松下29
 ■問合せ—設楽町観光協会 0536-62-1000
 ※感染症拡大防止のため中止になる場合がございます。



田原市 田原 凧まつり

大空を勇壮に舞う姿に胸が躍る凧。田原市では、毎年5月第四土曜日・日曜日に「田原凧まつり」が開催されます。土曜日に行われるのは「初凧祈願祭」と「初凧揚げ」。これは、子どもの誕生と健康やかな成長を願って初凧を揚げるもので、江戸時代端午の節句に男子の立身出世を願って揚げたのがはじまりとされています。上空で勇敢に糸を切り合う「けんか凧」が開催されるのは日曜日。赤組と青組に分かれて行われる凧合戦で、ガラスの粉を糊付けした凧糸を用い、相手の糸に絡めて切り合います。真上から突然襲い掛かる「急降下」や、猛スピードで左右に移動する「つばめ返し」などの技で凧を自在に操る、鮮やかな糸さばきは圧巻です。横長の形が特有の田原凧は保存会に所属する凧師・風絵師が一枚ずつ丁寧に製作。絵柄は男の子には武者や歌舞伎役者の姿が、女の子には巴御前や牛若丸などが子供の名前とともに描かれます。そのため一つとして同じものはなく、家族にとってはかけがえのない宝物です。



田原凧まつり
 ■開催日—5月21日(土)・22日(日)
 ■場所—田原市総合体育館周辺
 ■問合せ—渥美半島観光ビューロー 0531-23-3516
 ※感染症拡大防止のため中止になる場合がございます。